

3

There was a little god* living in a forest, who liked children very much.

The little god was always singing songs or playing the flute in the forest, but sometimes he went out to a village where humans lived and played with children.

The little god's appearance had never been seen by the children.



5

One morning in winter, children were playing in a field on the outskirts of the village.

The field was completely covered in heavy white snow.

“Hey, let’s push our faces onto the snow!”

One boy said.

All the “thirteen” children bent over and pushed their little-round faces onto the snow.



とある もりの なかに、
こどものことが だいすきな、
ちいさい かみさまが すんでいました。

この かみさまは、いつもは もりの なかで、
うたを うたったり、ふえを ふいたりして
いましたが、たまに ひとの すんでいる
むらに いったは、こどもたちに まざって
あそんでいました。

かみさまは、いままで いちども
こどもたちに すがたを みられたことは
ありませんでした。



21

ある ふゆのひの あさ。

こどもたちは、むらはずれの のはらで
あそんでいました。

のはらは いちめん、

ふりつもった ゆきで まっしろでした。

「ねえ ねえ、ゆきの うえに
かおを うつそうよ！」

と、おとこのこが いいました。

そのばに いた『13にん』の こどもたちは、
こしを かがめて、まるい ちいさな かおを
ゆきの うえに おしあてて いました。

